

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

子どもたちの暮らしを豊かにするために

今年度から、日本おもちゃ図書館財団のご協力により、アジアの子どもたちのための「トライブラリープロジェクト」をタイ、ラオスで開始することとなりました。

子どもの想像力や運動能力や自己表現力を伸ばすために重要な役割を果たすおもちゃを通して、子どもたちが豊かな子ども時代を送れるようにと願っています。

このプロジェクトの開始に先立ち現地で調査したところ、私たちの協力先の子どもたちは、現金収入が少ない家庭が多く、家におもちゃを持っている子どもはほとんどありませんでした。また、学校の先生方からは「学校におもちゃがあれば、子どもの就学率や出席率を伸ばすことができる」「おもちゃで遊ぶことでEQ（心の知能指数）を伸ばすことができる」という報告を受けました。

初年度はタイ5か所、ラオス6か所におもちゃを届けたいと思います。8月に試験的にタイ、ラオスの各1か所に送ったおもちゃは無事に届き、子どもたちが無心に遊んでいる写真が送られてきました。タイからの報告によると子どもたちは、毎日楽しく遊んでおり、子どもたち自身で、取り合いはしないこと、遊んだ後は元に戻すこと、等を話し合ったそうです。子どもたちの成長が楽しみです。



パクムット小学校 (ラオス)



ドロップインセンター (タイ・チェンマイ)

「愛の家」にて

5月26日、チェンマイの「愛の家」を訪問しました。子どもたちは学校に行っている時間でしたが、代表のキムさんが最近の子どもたちの成長について話してくださいました。子どもたちは全員元気で大きく成長し、それぞれの夢に向かって勉強に励んでいるようです。

「愛の家」は、1994年に、AIDSを発症して村から排除されてしまった山岳民族の女性たちを保護することを目的に作られました。すでに妊娠している人や、子どもを連れて路上生活をしている女性もあり、母と子が安心して暮らせる場所が必要だったのです。キムさんはその立ち上げ時から「愛の家」の責任者として、ここで暮らすすべての人々を、慈愛を込めて守ってこられた方です。

私がキムさんに最初にお目にかかったのは今から15年前のことです。幼くして母を失った子どもたちを膝に乗せ、頼ずりをする、包み込むような優しい笑顔に私自身が引き込まれてしまいました。お話を伺うと強い意志のもとに女性と子どもたちを守り続けていることを知り、頭の下がる思いがし、できる限りお手伝いをしたいと強く心に思いました。

今回久しぶりにお目にかかり、15年を経ても変わらないキムさんの笑顔に癒されました。今後もお手伝いを続けるとともに、キムさんのように揺るがず、意志を貫いた生き方をしていきたいものだと思います。

アジアの女性と子どもネットワーク代表 マリ・クリスティーヌ



メーランカムスクール

5月末に、チェンマイのメーランカムスクールを訪問しました。今年の生徒数は177人で21人の先生方が子どもたちの指導に当たっています。

タイの新学期は5月です。私たちが訪問する少し前に、新学期の最初の保護者の集まりがありましたが、出席率は90%を超えました。このように保護者が大勢参加したのは初めてということで、先生方も喜んでいました。以前は保護者が教育を受けていなかったために子どもの教育に関しての関心が低かったのですが、最近は保護者のほとんどが教育を受けているため関心が高まり、家で子どもの宿題を見てやる親も増えてきているとのことでした。

ここで昨年から開始した「かいこプロジェクト」は、粘土質の土のせいか桑の苗の発根状態があまり良くなく苦勞をしていましたが、今年は保護者も一緒に苗を植え、植え方や肥料などの工夫をした結果生育状況が大きく改善しました。これからが楽しみです。

16年の間に子どもたちの教育環境が少しずつ整備され、村の人々の意識も変わってきたことは、素晴らしいことです。今年メーランカムスクールの中学校を卒業した生徒は13人で、そのうちの11人が高校に進学しました。最近にはさらに大学に進学する子どもも出てきています。

今後、さらに子どもたちの生活環境が整っていくように、私たちの活動にも力を注いでいきたいと思えます。



希望の家

5月27日に「希望の家」を訪問しました。「希望の家」は1996年に親をAIDSで亡くした山岳民族の子どもたちのために設立しました。現在ここにいる子どもは20人で、その9割は両親を亡くしています。

最近では両親が麻薬中毒で育児ができない家の子どもの数が増えています。今年入った7歳の男の子は父親が重度の麻薬患者で母親も麻薬患者の上、HIV感染をしており育児ができないためにここに引き取られました。

施設長のタッサニーさんは、山の村を回ると麻薬患者が増加しており、子どもにも影響が出ていると子どもを取り巻く環境の悪化に驚いていました。



AWCは子どもたちのために奨学金を届けています。昨年2人の子が大学を卒業し、1人は就職し、もう1人は希望の家で子どもたちの世話をしているそうです。

おなかいっぱいプロジェクト

今年も多くの方々から書き損じはがきをお送り下さり、ありがとうございました。昨年に引き続き「おなかいっぱいプロジェクト」はチェンライ県の「子どもの家」を支援しており、皆様からのご寄付をお届けします。



東日本大震災復興支援

今年も陸前高田市の子育て支援施設「きらりんきっず」にウォーターサーバーの水をお届けしました。

仮設住宅の狭いキッチンでは、食事を作ることがひと苦勞というお母さん方の声を受け「きらりんきっず」では伝統食や子どもを育む食事をみんなで作って食べる「食育」に力を入れています。「子どもたちの将来を考えると、豊かな「食」の体験を持ち健康に育つことは何より重要です。一緒にご飯を作り食べることで親同士も仲良くなり、地域の人々のつながりを強くすることができます。」と代表の伊藤さん。

そんな時、安全でおいしい水は大好評とのこと。地域の人口が減り続け、なかなか復興が進まない中、前向きに活動を続ける「きらりんきっず」をこれからも応援し続けたいと思えます。

子ども買春・子どもポルノ禁止法の改正

私たちはこの数年、「子ども買春・子どもポルノ禁止法」の改正を求めてロビー活動を続けていました。

皆様にも改正を求める署名活動などにご協力をいただいていたのですが、6月5日に衆議院本会議を、続く6月18日には参議院本会議で賛成多数で可決し、子どもポルノの単純所持が罰則の対象となりました。この法律の改正は2004年以来10年ぶりです。改正案は、「性的好奇心を満たす目的で児童ポルノの写真などを所持した場合、1年以下の懲役や100万円以下の罰金を科す。」となっています。漫画、アニメ、コンピューターグラフィック等は「表現の自由を脅かす」ことの懸念から規制対象外となりましたが、単純所持の禁止はこの法律ができた1999年以来15年にも及ぶ間の私たちの大きな願いでありましたので、素晴らしい成果だと思えます。これまで署名活動にご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

子どもポルノは製造段階で子どもの人権を大きく侵害しており、子どもの虐待に他なりません。警察庁の発表によると、昨年1年間に児童ポルノ禁止法違反で検挙された事件は1644件、被害に遭った子どもは646人といずれも過去最多となっています。この中には小学生以下の子どもも92人含まれていて、このうちの7割以上が児童ポルノを作る際に強姦や強制わいせつの被害を受けていたとされています。このような現状の中で、法改正が進んだことは、子どもを守る社会への大きな前進ですが、インターネット上での対策や、量刑が適切であるかどうか等、まだまだ課題は残っています。

私たちは、今回残された課題について、今後もしっかりと取り組んでいこうと考えております。今後ともご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

パネル展示 ～かいこプロジェクト～

7月14日(月)～20日(日)アートフォーラムあざみ野にて、パネル展示「タイの山岳民族の子どもたち～かいこプロジェクト～」を開催しました。

「かいこプロジェクト」は2012年桑や蚕を育てることで、子どもたちの自立支援を促すことを目的に始めました。

今回の展示では、職業訓練として、養蚕に取り組んでいるチェンマイの子どもの家と、生活向上のために養蚕を始めようとして桑を植え始めたメーランカムスクールの子どもたちの様子を伝えました。

ご来場された方々からは「昔養蚕をしていたので大変さがわかります。」「タイは黄色いまゆなのですね。」「さなぎがタンパク源になるとは知らなかった。」などの声が寄せられました。子どもたちの日頃の様子を見ていただけるととても良い機会になりました。

この事業を通して子どもたちが命の大切さや、根気よく取り組むことの重要性を伝え、収入に繋がることで自分に自信が持てるようになることを願っています。これからも皆さまとともに、子どもたちを見守ってまいります。



子どもの家のかいこプロジェクト

これからの参加予定イベント

- ・グローバルフェスタJAPAN2014(日比谷公園)10/4・5
- ・よこはま国際フェスタ2014(象の鼻パーク)10/18・19
- ・旭区民まつり(帷子川親水緑道)10/19
- ・ポレポレまつり2014(本牧いずみ公園)11/8
- ・世界AIDSデーイベントinよこはま(横浜SOGO前イベントスペース)11/22
- ・シルキークリスマス(シルク博物館)12/14
- ・中区多文化フェスタ2014(横浜市技能文化会館2階)12/14

書き損じはがき ご寄付のお願い

おなかいっぱいプロジェクト」では、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。

育ち盛りの子どものバランスのとれたご飯をおなかいっぱい食べられるように、ぜひお手元の書き損じはがきや未使用の切手をAWC事務局までお送りください。よろしくお願い申し上げます。

AWC事務局：〒231-0015

横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

美しさとは？

「パイナイ？（どこ行くの？）」知っている人がぶらぶら歩いていると、タイ人は必ず声をかける。そしてかなり遠いところにいたとしても、叫びながら話し込んでいる。その姿を見るのはとても微笑ましい。外国人が歩いていると、たとえ知らなくても声をかけてくる。タイ人はとても人懐こく、こちらもついつい笑顔になってしまう。

けれど、タイに着いてまだ10日余り。ほとんど日焼けをしていない私が街中を歩くには少し注意が必要だ。タイ語を勉強中の私は、できる限りいろんな人と話したい。しかし肌が白い日本人と話すと「スワイ（きれい）！携帯教えて！」と男性から絡まれ、「スワイ！白いわー！」とおばちゃんからは触られまくる。一日目は嬉しかったきれいという言葉も、さすがにだんだんうんざりしてくる。どこへ行っても肌の白さ=美しさという判断をされ、なかなかそのままのうつくしさや内面の輝きが美に結び付かないのがもどかしい。

チエンマイとチエンラーイの間にある小さな町で、山岳民族の女の子と出会った。山で仕事をする両親と離れ、タイ人の親戚と共に暮らす彼女に対する評価は「心優しい、よく働く、でもあんまりきれいではない、だって色黒だもん」とのこと。一生懸命弟の世話をする姿や、タイ語が満足ではない私を気遣ってくれる優しい笑顔はとても美しいのに。もし、私がタイ語をもっと理解できて、もっと突っ込んで聞くことが出来たら、白さ以上のタイの美的感覚に触れることができるだろうか。

試着で帽子を被ったり、口紅を塗り直したりしても「スワイマイ？（きれい？）」と聞いてくるくらい美を積極的に追及しているタイ人が、いったいどんな美を語ってくれるのかこれからのタイ語の上達が楽しみでならない。（ユースボランティア 太田 祥歌）



ご寄付・ご協力ありがとうございました

2014年1月～8月（敬称略・順不同）

【AIDS孤児里親基金】 田中雅明 阿部潔 太田昌治 阿部真紀 貴田晞照 西川公久 城条洋子 伊藤たま江 笹田克子 齊藤徹 六波羅昭 佐々木雅祥 奥村徹 小島みゆき 花谷泉 野澤一良 高橋清実 岡部淑夫 増井俊樹 武井晴子 マリ・クリスティーン

【おなかいっぱいプロジェクト】 石井圭子 長島道子 阿部潔 柳原秀子 日比三枝子 沖津久美子 貴田晞照 尾形登志雄 西川公久 大濱悦子 高品都 城条洋子 村田順子 菊池ヨネ子 齊藤徹 青山圭子 中村田鶴子 六波羅昭 吉岡啓子 佐々木律 百崎玲子 花谷泉 小島みゆき 北爪一夫 伊藤康子 松井明子 渡辺和美 吉澤初江 朝廣玲子 伊藤香織 林八重子 山本良徳 池山洋二 鈴木勇 宿利元子 岡部淑夫 秋山洋子 五十嵐千恵子 福島生子 茶木一城 恵津子ジュリエットローズ 竹内知珠子 桑原惇子 増井俊樹 安藤芳子

【かいこプロジェクト】 阿部潔 安元隆子 太田昌治 高品都 西川公久 城条洋子 佐藤真吾 六波羅昭 佐々木雅祥 塩入真知子 花谷泉 五十嵐千恵子 大條成人 増井俊樹 山本博子 原梓 清水雅子

【東日本大震災支援】 阿部潔 藤松産業 宮崎恵子 花谷泉

【AWC基金】 阿部潔 尾崎知子 原光代 赤枝恒雄 川野碧 酒井ユリ子 稲子谷三枝子 田中哲夫 甲斐宏 山本佳世 高橋誠 中村照代 山本高央 八島恵理 増井俊樹 半田あや 川辺次郎 金子安男 岩瀬佳子 秋元千代子 丸山ヨシ子 マリ・クリスティーン 落合貴美恵

【書き損じはがき】 山崎範子 笠本雅巳 土屋ゆう子 久保征夫 伊東喜代治 大塚久仁子・南美 佐藤真吾 斎藤美恵子 阿部潔 齊藤徹 村上玲美 中村田鶴子 岡田靖子 田路あつ子 半田あや 高橋誠 高松郁 山本美恵子 朝廣玲子 河本聡子 川辺次郎 小笠原みちよ 吉澤初江 渡辺和美 ガールスカウト山梨県連盟 支援キルトの会ふーぶ 堤澄子 熊谷真也 重原文明 秋山洋子 林八重子 高階志津江 北爪一夫 中村照代 安藤芳子 落合貴美恵 稲葉まり 堀江五十鈴 伊藤美知子 宮崎恵子 土田たか 澤渡好子 林恵子 中田久美 高安照代 松村絹子 馬淵信彦 野尻悠紀子 富田夏音 伊藤康子 橋本美史 五十嵐千恵子 杉山澄江 原田幸子 東幸子 大川春良 浦田知寿子 菊池幸江 茨木夢子 浅野さとみ 藤田美江子 山本里絵 竹内外美江 山本博子 中川順子 長谷川妙子 アートフォーラムあざみ野

※記入漏れ、間違いなどございましたら事務局までご連絡下さい。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆さまのご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-2-4109

口座名：AWC



Asian Women & Children's Network

発行元：アジアの女性と子どもネットワーク 発行責任者：山本博子 編集担当：安藤芳子、落合貴美恵

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/FAX 045-650-5430 E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

URL : <http://www.awcnetwork.org>